

医療・福祉施設のヒューマンエラー低減に向けた認知心理的デザインのアプローチ

宇都宮大学 地域デザイン科学部 建築都市デザイン学科 糸井川高穂、

Without ナッジ

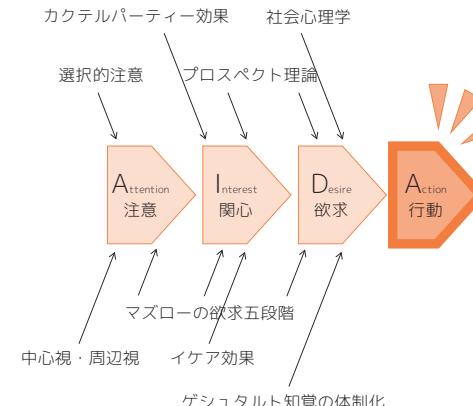
【ナッジ】

Nudge
肘で突くように行
為を促すこと。情
報入手する段階
から行為が発生す
る段階までの一氣
通貫したナッジで
なければ、行動誘
発の可能性を高め
られない。



With ナッジ

【ナッジ】



省エネして欲しい

【色】

中心視は色の差を検出し
やすい。



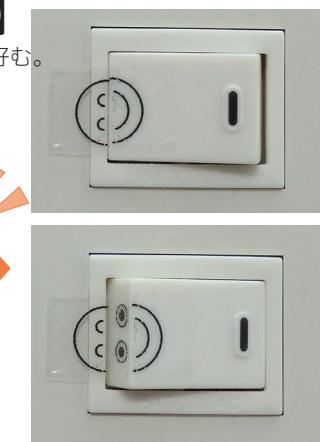
【色】

中心視は色の差を検出し
やすい。



【知覚の体制化】

人は、整って並んでいる状態を好む。



【顔】

人は、風景の中では人体や顔、
顔の中では目・口・鼻に注意
が向きやすい。

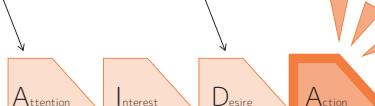


【驚き】

人は、表情の中では怒りや驚きの表
情に関心を持ちやすい。

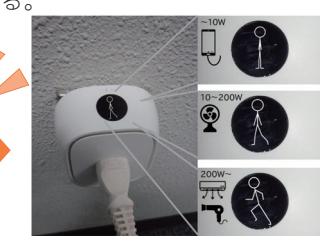
【光】

光の変化は周辺視でも
検出されやすい。



【共感】

相手を見ていると、その状態にあたかも自分が
いるかのような気分になる。



【自己効力感】

インプットとアウトプットの関係が明確で
あることにより、自己効力感を得られる。

このナッジを動画で
見てみませんか？



素早く安全な行動をして欲しい

【顔】

人は、風景の中では人体や顔、顔の中
では目・口・鼻に注意が向きやすい。



【物語】

イラストで示される情報は、文字情報よ
り素早く正確に理解されやすい。

